

若手研究者育成セミナー参加レポート

若手育成セミナーに参加して

小松 彩夏

(新潟大学大学院 医歯学総合研究科 口腔生命
福祉学専攻 口腔生化学分野 修士課程1年)

新潟大学大学院口腔生化学分野に所属しております、修士課程1年の小松彩夏と申します。今回、「第61回日本神経化学会」に併せて開催された「若手育成セミナー」にはじめて参加させていただきました。若手育成セミナーに参加して感じたことについて述べさせていただきます。

私がセミナーに参加したきっかけは、指導教授である照沼美穂先生に学会参加とセミナー参加を勧めていただいたからです。私は大学院に進学したばかりであり、研究に関しては初心者であるため、学会参加や他の研究者・院生との関わりもまだ少なく、セミナーに参加すれば研究仲間を増やせるかもしれないという期待を持ちました。それと同時に、周りの人と打ち解けられず、誰とも話さずに終わってしまうのではないかという不安もありました。

そんな期待と不安を持ちながらセミナーの初日を迎えたのですが、抱いていた不安は杞憂に終わり、初日から期待を上回る貴重な経験ができました。

プログラムの最初は、グループごとに分かれた少人数ディスカッションでした。私のグループは、山下俊英先生・尾藤晴彦先生の研究内容やキャリア形成に関する話をさせていただきました。山下先生は研究内容を詳しく話してくださり、論文で難しく思っていた内容も少人数で話を聞くことで分かりやすく、しっかり頭に入ってきました。尾藤先生はご自身の経験を時には冗談もはさみながら話してくださり、緊張がほぐれていきました。ここで少し後悔しているのは、手を挙げて質問する勇気が無く、せっかくのチャンスなのに、ディスカッションができなかったことです。

その後、ホテルに帰り全体討論会に臨みました。はじめは全体討論と聞き、堅苦しい討議をイメージしていましたが、全くそんなことはありませんでした。全体討論会とは、参加者の持ち寄った地元のお酒やジュースを飲みながら先生方や参加者と自由に会話する会で、先の少人数ディスカッションよりも先生方との距離が近く、話しやすい雰囲気になりました。そこで私は、少人数ディスカッションで質問できなかった反省を踏まえて、尾藤先生や別グループの先生、世話人、チューターの先生方に研究のお話やキャリアのお話、将来について相談しました。実験方法で日頃疑問に思っていたことを相談し、アドバイスとヒントをいただくことができました。初日の中で全体討論が一番いい思い出になりました。

2日目は、学会会場で前日に会話をした院生のポスター発表や、先生方のシンポジウムを聴講し、私自身の現在の研究に活かしていけそうなヒントを収集できました。また初日の学会会場では知り合いがなく、不安のなか歩いていましたが、2日目は前日の全体討論会で話したセミナーの受講生や先生方をお見掛けし、あいさつをしながら学会に参加することができました。セミナーに参加したことで、会場で神経化学者の一人として居場所をもらえた気分になり、学会に参加している自覚が湧いてきました。

若手セミナーを通して感じたのは、他大学や他分野の研究者ネットワークの大切さです。私はこの春

口腔生命福祉学科を卒業し、同級生のほとんどが歯科衛生士や社会福祉士として社会に出ていきました。大学院に進学して基礎研究をしているのは私ひとりです。そのため、同じ研究室内の先生方しか、研究に関する会話はしていませんでしたが、このセミナーに参加したことで、他分野の研究の話を聞くことができ、実験でのアドバイスを異なる視点からもらうことができました。そしてなにより今回のセミナーで最も大きな収穫は、同年代の院生と交流することで研究者仲間ができたことです。全国で多くの同年代の仲間達が若手研究者として日々頑張っていることを知り、私も神経化学者として研究を続けていく自信ができました。この経験を胸に、今後も研究生活に励もうと思います。

末筆になりますが、このセミナーを運営してくださった関係者の皆様、とくに世話人の皆様や講師の先生方、チューターの皆様に心より感謝申し上げます。